

「2023年度タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学法学部4年 秋津 光咲

① 学習成果

今回、チュラーロンコーン大学サマースクール（以下本プログラム）に参加する前は、タイのドラマが好きで、文化に興味がある、という程度であった。今回タイに行ったことで、将来はタイや東南アジアで仕事をしたいと考えるようになった。タイの良さとともに今後深刻化していくと思われる問題にも触れることができた。今後はこの問題解決につながる仕事をしたいと思っている。

次の留学についても具体的に考えるようになった。タイの他にも東南アジアの国について学びたいと思い、4回生でもスプリングスクールに参加することができるならば、ベトナムかインドネシアのプログラムに参加をしようと考えている。

② 海外での経験

タイでの生活は日本と異なる部分も多数あった。私は将来海外駐在をしたいと考えているため、今回のプログラムでは海外生活の予行練習のつもりで生活した。

まず、自分の意見をはっきりと述べることは日本以上に求められる。わからないと思ったことはその場で聞くことが重要であった。次に、自分の体力の限界を把握することも必要である。私は少しでもしんどいと思ったら休み、回復したら活動する、ということを繰り返したため、体調を崩さずに済んだ。さらに、起きるかもしれないリスクに敏感にならなければならない。プログラム中の自由時間に何度か日本人だけで行くには不安な場所を訪れる機会があった。タイの「危ない場所」は、日本の治安が悪いエリアよりも何段階か危険な雰囲気であった。その際は必ずチュラ大の学生さんに案内をお願いした。また、危ないと言われている場所では振る舞いに気を付ける、といったことなども心掛けた。

活動範囲を広げるためには、チュラ大の学生さんに案内してもらうのが一番良かった。スマホで調べて訪れるよりも、「安い店」「おいしい店」、などより実体験に根差したお話を聞くことができ、ネットで調べた情報を頼りに出歩くよりも密度の濃い時間を過ごせた。

③ プログラム内容

本プログラムでは、英語での講義が多かった。タイ語、タイ文化、タイの歴史、アユタヤでのフィールドワークでの講義などは全て英語である。私は日本にいる間に英語の勉強は継続していたため、講義内容については難なく理解できた。しかし、自身のスピーキング力のなさも痛感した。質問時に明らかに誤った単語を話してしまったり、概要は話せてもディテールまで伝えることができなかつたりと、もどかしい思いを何度もした。

プログラムの内容はどれも非常にアカデミックであり、興味深かった。これまでタイの文化や歴史を勉強する機会がなく、初めて知ることがほとんどであった他、表層的にしか知識がなかった事柄についても、背景にある思想や歴史を知り、より深くタイについて理解ができるようになった。

④ 進路への影響について

私は4回生であり、すでに就職先も決定している。就職活動の際に、国際的に活躍できるフィールドがあるか、という点も重視したくらい、国際関連業務に関心があった。今回、本プログラムに参加したのも、とにかく海外に行って、広い視野を身につけたい、将来のキャリアを考える上で何か参考になる体験をしたい、という気持ちからであった。本プログラムに参加したことで、タイの発展を目の当たりにするとともに、発展によって引き起こされた問題も実感することができた。この経験により、漠然と思っていた国際業務の内容を具体的に思い描けるようになった。